

山梨県立中央病院は来年1月22日、外来患者向けに新たな手術室（OR）を整備する。救急体制や診療機能強化に向けた計画の一環で、8月にはメイン手術室（中央手術室）、救急患者

やまなし
医療最前線
新3OR始動
県立中央病院から
〈284〉

向けの手術室も生まれ変わる。

外来手術室は病院2階の340平方メートルに2室設ける。1室は手術件数が多い眼科専用、もう1室は耳鼻咽喉科、形成外科、泌尿器科、外科が利用する。日帰りで対応可能な手術に加工

え、針を刺して診断のため手術を行っているが、開設の組織を採取する生検を行う。小嶋裕一郎院長は「白応じた柔軟な治療対応がで内障などは現在、入院してきる」と意義を強調する。

救急体制や手術機能強化

即座に治療、救命目指す

外来手術室の新設に伴い、余裕が生まれる3階のメイン手術室の機能は、来年8月に拡充する予定となる。総床面積350平方メートルに血管造影装置3台、CT撮影装置2台を増設。救急患者を即座に診断・治療する清潔な手術室となる。1分1秒を争う現場で、命を救うための広範で高度な救急医療の提供を目指す。

同院への救急車の搬送は昨年度7261件と過去最多を記録。2010年度の独法化前と比べて倍増している。同院を運営する県立病院機構の小俣政男理事長は「基盤整備により、県の中核病院としての役割をさらに強固にしたい」と話す。

◇

来年1月に稼働する外来手術室で診療機能強化に向けた取り組みを説明する小俣政男理事長（右）と小嶋裕一郎院長
—甲府・県立中央病院



っている。高度医療の提供を視野に入れていて、現在ある10室のうち1室は循環器専用として、心臓弁に関する新たな手術ができるようにする。さらに2室を融合させ、手術支援ロボットを用いた手術室を整備する。先行して新たなロボット「ビュゴ」を既に導入しているという。

同院が「今回の整備の最大の眼目」と位置つける手術室は来年8月、高度救命救急センターに整備される。県立中央病院は三つの手術室「OR（オペレーティング・ルーム）」の整備を進めている。次回からは具体的な機能強化の内容を各診療科の医師に聞く。11第2、4火曜日に掲載します